

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：気管支ぜん息患者の効果的な長期管理支援のための患者アセスメント手法と評価に応じた患者教育プログラム

申請課題名：アレルギー専門コメディカルによる喘息・アレルギー疾患自己管理・長期管理指導の質の向上、医療の効率化に関する研究

調査研究代表者氏名：赤澤 晃

評価コメント

・大変貴重なデータであるが、考察でも述べられたように対象者がアレルギーに関心がありかつ小児アレルギー学会員またはアレルギーエデュケーターの頻度が高く実際の医療現場とは異なる結果であり、対象を一般化したもので調査を行う必要がある。一方で、これらの対象者でも教育の負担は大きくアレルギーエデュケーターの必要性が浮き彫りになり、今後へ期待できるデータとなっている。

・効果的、効率的な患者教育指導のためにアレルギーエデュケーターの必要度はますます高まると考えられる。アレルギーエデュケーターの役割、効果を検証し、さらに職種を拡大して養成する方向を期待している。

・現在の日本の医療制度を考えた時、喘息患者の教育のため、看護師にその任務を分担してもらうことは最も現実的な方法であるが、看護師がそれなりのメリットが得られるようなシステムを考えないと長続きしない。他の慢性疾患でどのような方法がとられているか、あるいは外国ではどのような制度があるのかよく研究して参考にする必要がある。

・医療現場における患者教育の現状をインターネットを利用したアンケート調査で教育の実施者、実施内容等を明らかにした。すでに、医療者について、データがほぼ得られている。小児エデュケーター制度が本邦でも発足し、患者教育の重要性がますます注目される場所である。各種の小児アレルギー疾患における教育についての有無や実施内容について検討している。その指導が医師にとって負担となっておりさらなるコメディカルの育成の必要性が浮き彫りにされた。全国でアレルギーエデュケーターのいる施設に偏ったアンケート成績であるのでより一般的な小児科医での研究も必要か？

・アレルギーエデュケーターの普及を図るためにどのような対策が必要かについては是非検討してもらいたい。

・職場でのアレルギーエデュケーターの位置づけを制度的に明確にするよう関係者に働きかけていくことが今後必要である。

・小児アレルギーエデュケーター、pediatric allergy educator (PAE)などの医療保険制度における公的位置づけを推進する必要がある。薬剤師や栄養士を対象にしたプログラムも併せて推進するように期待したい。

・患者の多くは、個人病院等小規模な病院、診療所に通院していることも多いと思われるので、実技指導などは看護師のみではなく、薬局薬剤師を対象にいれてもいいのではないかと思います。